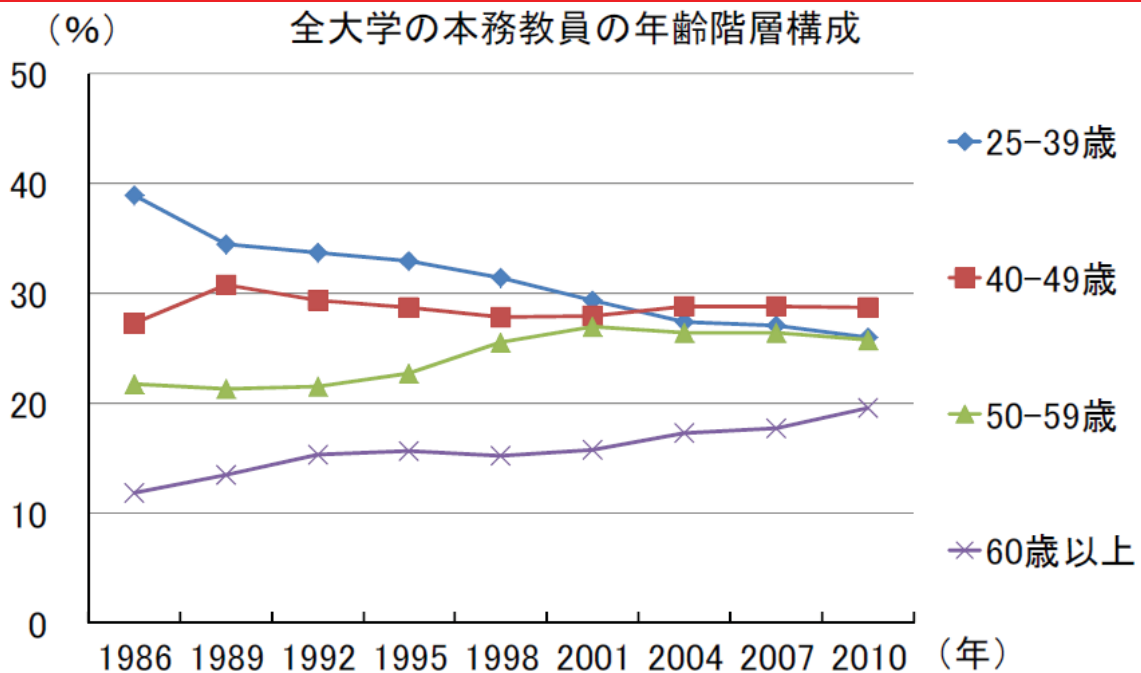


⑥:全大学の本務教員の年齢階層構成

大学の本務教員に占める25～39歳の教員の割合は減少傾向にある。



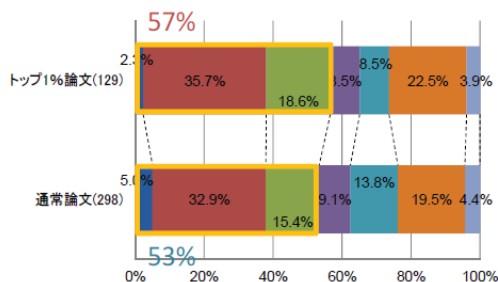
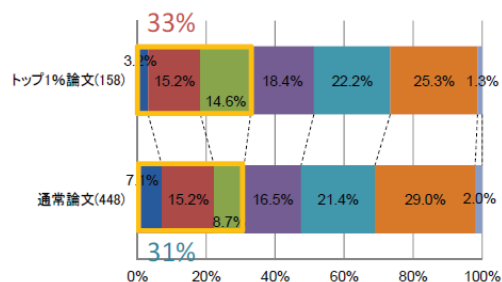
出典:平成25年度科学技術白書

⑦:若手研究者の貢献

論文生産の筆頭著者職位別内訳をみると、若手研究者の割合は米国の方が高くなっている。

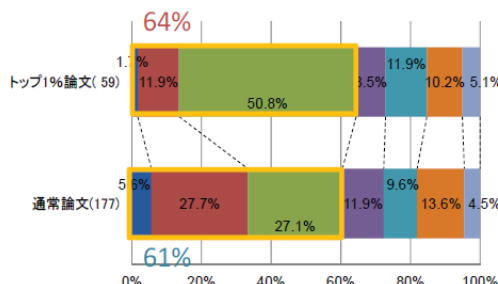
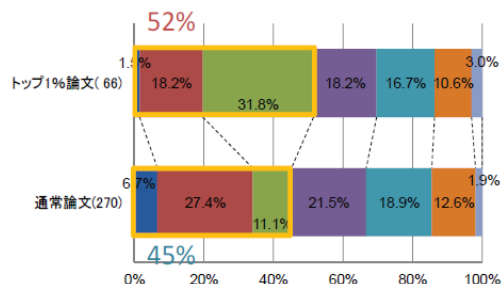
日本(大学、物理科学系)

米国(大学、物理科学系)



日本(大学、生命科学系)

米国(大学、生命科学系)

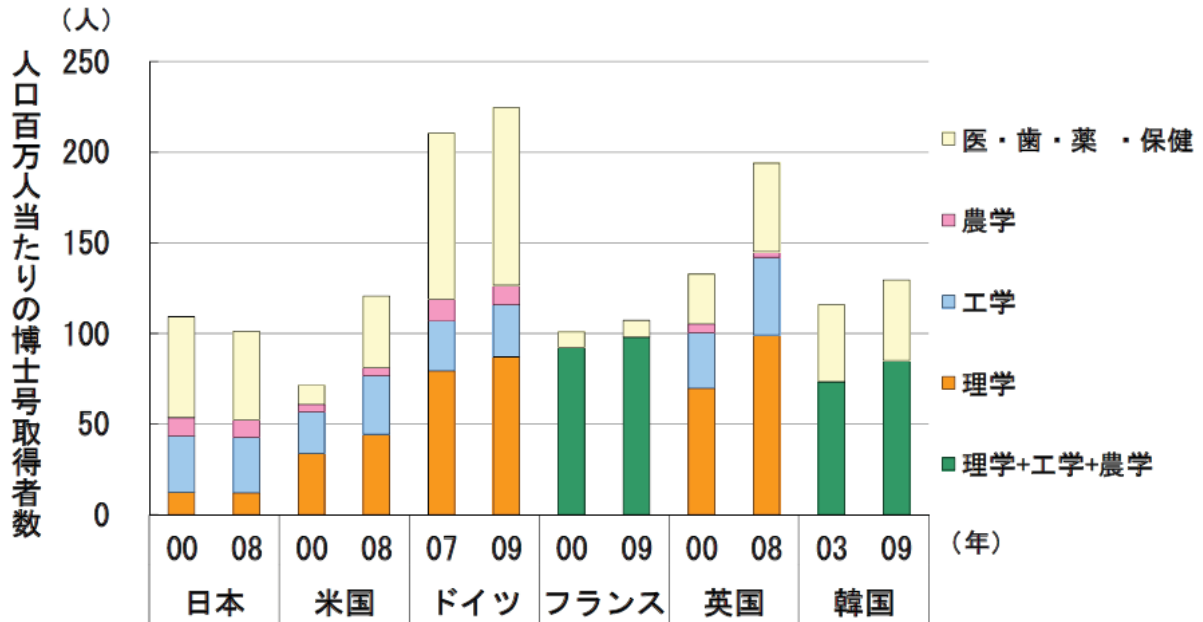


注: 著者の配列が「調査対象論文への貢献の順番」とされた回答を集計対象としている。

出典: 科学技術政策研究所 NISTEPブックレット-1「日本の大学における研究力の現状と課題」, 2013年4月

⑧:人口100万人当たりの博士号取得者数

各国の博士号取得者数を人口100万人当たりで見た場合、日本はドイツ及び英国と比較すると少ない数値であり、減少傾向である。(自然科学系)



注)

<日本>当該年度の4月から翌年3月までの博士号取得者数を計上。

<米国>当該年9月から始まる年度における博士号取得者数を計上。

<ドイツ>当該年の冬学期及び翌年の夏学期における博士試験合格者数を計上。

<フランス>当該年(暦年)における博士号(通算8年)の取得者数。理学、工学、農学は足したものを同時計上。

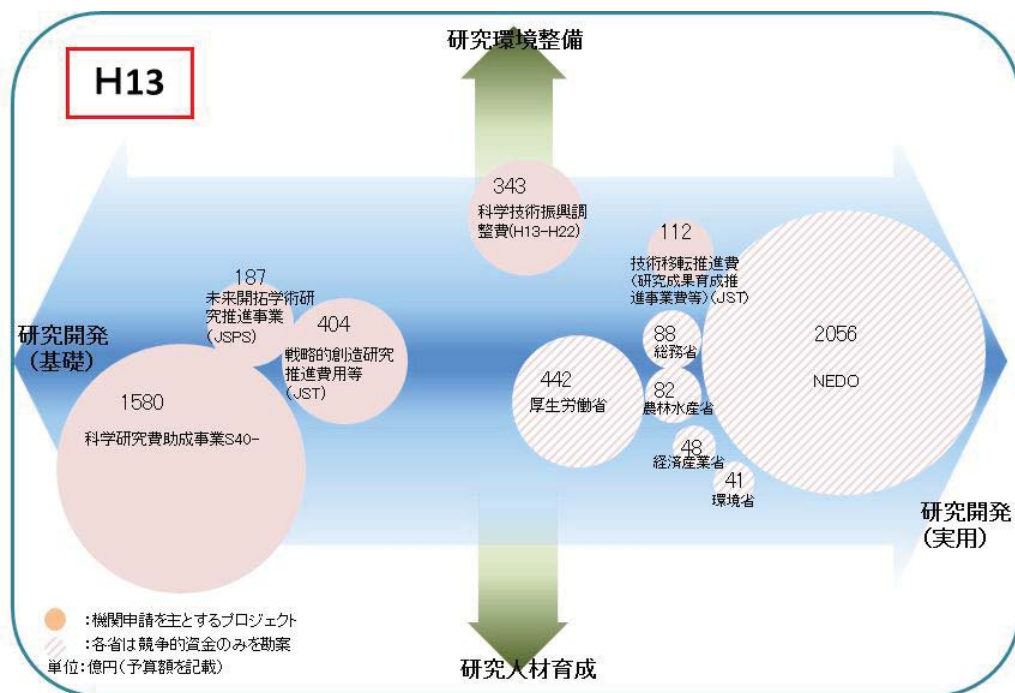
<英国>当該年(暦年)における大学及び高等教育カレッジの上級学位取得者数を計上。

<韓国>当該年度の3月から翌年2月までの博士号取得者数を計上。理学、工学、農学は足したものを同時計上。

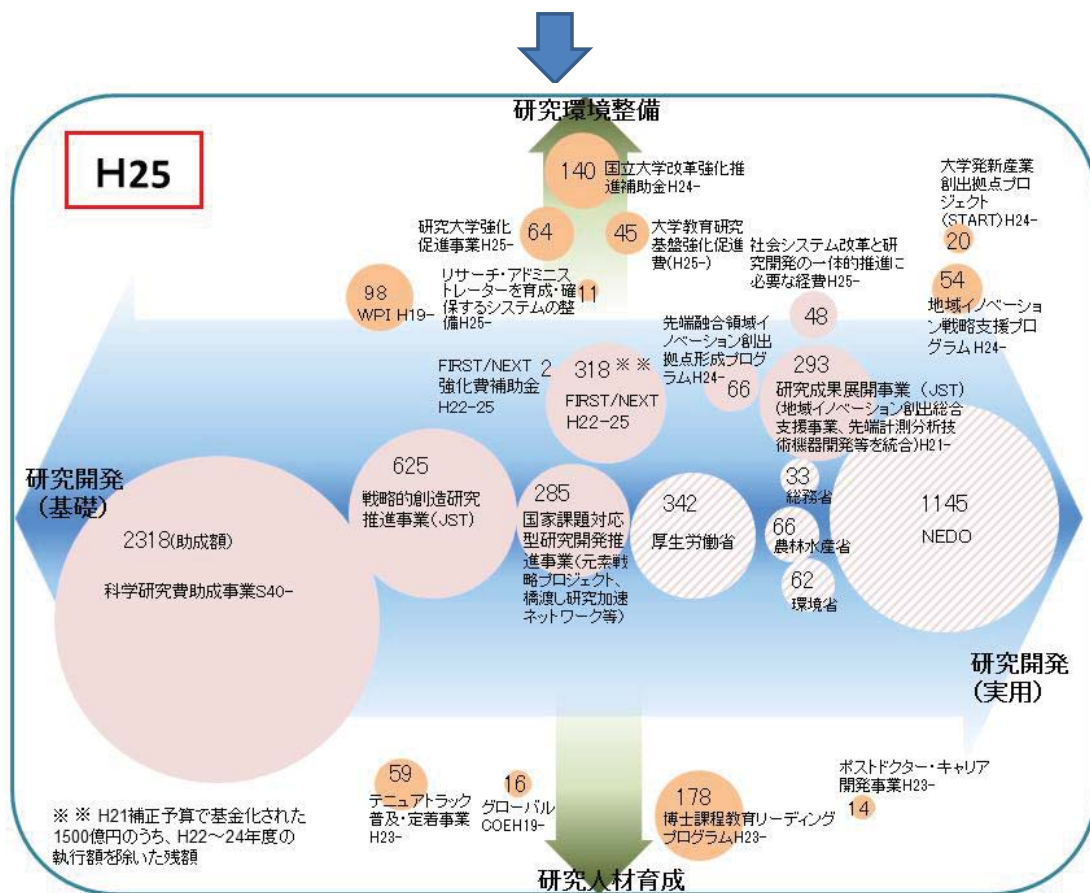
出典:平成25年度科学技術白書

⑨:競争的性格をもつ主な科学技術関係経費事業の変遷

省庁再編当時に比べて小規模なプロジェクトが増加
 研究開発のみならず、研究環境整備や研究人材育成と、様々な性格の経費が増加



出典:独立行政法人科学技術振興機構研究開発戦略センター(CRDS)作成資料



出典:独立行政法人科学技術振興機構研究開発戦略センター(CRDS)作成資料